

勉強が苦手だった少年時代、私が近所の友人たちと没頭していたもの、それは野球でした。スポーツには自信があった私は、将来プロ野球選手になることを夢見ていました。

そんな野球少年だった私はいま、サッカーの世界で生きています。サッカークラブとなったのは、小学校の恩師のこんな一言でした。「野球では甲子園にしか行けないけど、サッカーがうまくなれば、世界中の国へ行けるし、オリンピックにだって出れるぞ」。中学に入学した私は、恩師の言葉に感化され、迷うことなくサッカー部へと入部したのです。

今思えば、安易なぎっかけでした。しかし、いい指導者と仲間恵まれた私は、四〇を超える国々へ行き、また、二度のオリンピックに出場することが出来たのです。

そんな経験の中で、今の私にとって一番大きな財産は、サッカーを通じて世界中の文化に触れ、また、数々の素晴らしい出会いがあったことでしょう。たとえば、一八歳のときに出会った西ドイツ出身のクラマー氏。彼からは「本当のサッカー」や「ストライカーとしての役割」を徹底的に叩き込まれました。私がか

プロフィール

元日本代表サッカー選手でフォワードをつとめた。1967年よりヤンマーディーゼル（のちのセレッソ大阪）に所属。1968年開催のメキシコオリンピックでは、6試合出場中7得点を挙げて日本代表を銅メダルに導き、自身も得点王に輝くなど、前人未到の成績を多く残した。現役引退後は、Jリーグ発足時にガンバ大阪の初代監督を務めるなど、日本サッカー界の強化に尽力する。現在、日本サッカー協会副会長。



少年時代

かまもとくにしげ
釜本 邦茂

ンマーに在籍していた時には、ネルソン吉村という素晴らしいブラジル人のバートナーに巡り会い、数多くのタイトルを獲得しました。ほかにも、ペレやベッケンバウアー、クライフ、オベラーツといった世界的な選手との出会いも私にとつては大きな刺激でした。

私を成長させてくれたのは何も選手だけではありません。敵、味方に関係なく、いいプレーに対しては温かい声援を送ってくれる、サッカーを愛する世界中の人々の存在が私を勇気づけてくれたのです。その中でも、メキシコ五輪で地元メキシコと戦った三位決定戦での残り一〇分のことは忘れられません。メキシコサポーターが我々に割れんばかりの声援を送ってくれたのです。その声や光景は、今でもはっきりと私の耳に残り、脳裏に焼き付いています。

きっかけは小学校の恩師の一言でした。しかし、その一言が野球少年の人生を大きく変えるのみならず、世界中の人々との素晴らしい出会いにまで導いてくれたのです。その出会いを演出してくれた恩師に私は強く感謝しています。

月刊
みんぱく
8月号目次

- 1 エッセイ 千字文
少年時代 釜本 邦茂

特集 音の力

- 2 新音楽展示への誘い 寺田 吉孝
5 太鼓——荒ぶる音 福岡 正太
6 ゴング——伝え交わる音 福岡 正太
7 チャルメラ——演じる音 寺田 吉孝
9 ギターと世界——歴史の中の音楽と楽器—— 笹原 亮二

- 10 研究フォーラム
グローバルな助け合いについて考える
鈴木 紀
12 みんぱく Information

- 14 地球ミュージアム紀行
正倉院の博物館学
五月女 賢司
15 みんぱく 私の逸品
ギター
押尾 コータロ
16 散策と思索の径
吹田の三名水を訪ねる
久保 正敏
18 多文化をささえる人びと
難民支援から日本社会の成熟をめざして
認定NPO法人 難民支援協会
金 美善
20 歳時世相篇
焼肉の日（日本）
語呂合わせの記念日
朝倉 敏夫
22 フィールドで考える
門の向こうに広がる世界
今中 崇文
24 次号予告・編集後記